

令和5年度 右京区地域保健推進協議会 会議録

令和5年10月10日（火）

午後2時～午後3時30分

右京区役所5階大会議室1

1 出席者（敬称略）

<委員>

一般社団法人右京医師会会長：松木 正人
右京歯科医師会会長：米沢 武
公益社団法人京都府看護協会中京・右京地区理事：新井 妙子
右京区社会福祉協議会副会長：石田 光
右京区地域女性連合会副会長：高松 令子
三菱自動車工業(株)京都製作所管理部長：西本 智
一般社団法人右京医師会顧問：寺村 和久（斉藤委員代理）
京都光華女子大学教授：堀井 節子
右京区すこやかクラブ連合会会長：藤川 泰
右京区自治会連合会副会長：折居 弘一
右京保健協議会連合会会長：山田 高之
右京区保育園長会会長：植村 尚子
市民公募委員：松下 球代

<事務局>

右京区長：人見 早知子
右京区役所保健福祉センター長：藤田 達也
同 子どもはぐくみ室長：井上 ひろみ
子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部担当部長：有本 晃子
右京区役所保健福祉センター健康長寿推進課長：小谷 康之
同 健康長寿推進課担当課長：森川 由紀子
同 障害保健福祉課長：出井 正之
同 子どもはぐくみ課長：河原 岩夫
保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課担当係長：有原 由美子
子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部
子ども家庭支援課担当係長：加藤 麻衣子
右京区役所保健福祉センター健康長寿推進課地域支援係長：石田 光紀
同 健康長寿推進課地域支援担当：大丸谷 智子

2 開催挨拶

人見右京区長

3 議題

(1) 部会長の選出について

小谷課長：昨年度書面開催した当地域保健推進協議会において、部会長に右京医師会の寺村会長を、副部会長に右京保健協議会連合会の山田会長を選任した。右京医師会会長が本年7月に寺村先生から松木先生に代わったことに伴い、当地域保健推進協議会の委員も寺村委員に代わって松木委員に御就任いただいている。

ついては、部会長について、松木委員にお願いしたいと思うがいかがか。

(異議がなかったため、部会長に松木委員を選出。以下、議題は、松木部会長により進行)

(2) 京都市保健所運営方針について

事務局（小谷課長）から説明。

寺村委員：コロナが始まって3年、右京区役所の方々には大変お世話になった。集団予防接種も非常にスムーズにできたと誇りに思っている。右京医師会もやる気になっていたし、右京医師会内にある訪問看護ステーションが協力してくれたことも大きい。右京にお住いの方たちには、よかったと思ってもらえていると思っている。行政もきっちりと対応してくれたので、区内の高齢者施設のクラスターも市と連携して対応できたと思う。

井上室長：この春まで私は市役所でコロナの担当をしていた。当時、右京医師会は市内で一番初めに高齢者施設の訪問チームを組んでくださった。他区の医師会もそれに追随するかたちで対応してくださったのは、右京医師会がリーダーシップをとってくださったからだと思う。右京に着任してから地域に出向いた時に、コロナの時には右京医師会の先生方が施設に行ってくくださったことを伝え、感謝の声がとても多かった。このような力強いバックアップが右京であったことに感謝している。この場を借りて御礼申し上げる。

松木委員：事務局からの説明では省かれていたが、8 ページの民泊について何か動きはあるのか。コロナでダイヤモンドプリンセス号でのクラスターが起きたときに、嵐山の方でも民泊に宿泊している外国の方がたくさんいたが、行政は何も対応していないみたいな感じであった。宿泊者の名簿もないことが問題であったと思う。民泊でも名簿の作成を義務付けるなど、水際対策の次の、病原菌が入ってきたときの対策として必要ではないかと思っている。

小谷課長：民泊の直接の担当者は区役所にいないので詳しくお答えできないが、直近での大きな動きはないと思う。京都市としての民泊対策の資料を提供させてもらえたらと思っている。

寺村委員：胃がん検診について、胃カメラが主流になってきており、精度も違うのでバリウムの方がいいという意見はないと思うが、区民としてはどうか。胃カメラの方が値段も高い。

森川課長：区役所で実施している胃がん検診ではバリウムで検査している。全市的にはバリウムが減っているので、胃カメラが増えている可能性があると思っている。

寺村委員：バリウムが減っているからと言って胃カメラが増えているわけではない。減った分だけがん検診を受けているという訳ではない。胃がんの早期発見に向けて胃カメラも受けたいという人のために、胃カメラをやっている病院のリストみたいなものがあると、予約して受けやすいと思う。

森川課長：受診率向上のために、過去の受診者のうち携帯電話番号を把握している方に、胃カメラを実施しているお近くの指定医療機関と電話番号を SMS で配信することを行っている。

松木委員：母子保健について、保健センターと児童相談所のすみ分けはどうなっているのか。

河原課長：児童相談所は 18 歳までが守備範囲だが、色々な情報が入ってくるので、横の連携として虐待事案等の情報は共有している。

井上室長：児童虐待は市としても重要事案として、要対協という枠組みで幼稚園や保育園とも連携して対応している。子どもは場所に応じて色んな表情を見せるので、児童相談所ともその情報を共有している。警察もよく動いてくださっていて、子どもがケガをして救急車が出動したときは必ず現場に来て状況を確認してくださっている。

(3) 令和4年度右京保健センターの事業統計報告について

(4) 令和5年度右京区の地域保健の取組について

事務局（小谷課長、森川課長、河原課長、出井課長）から説明。

松木委員：23ページの結核の新規登録者数は右京区の数値か。

小谷課長：そうである。

松木委員：他区と比べて多いのか。

有原係長：人口が多い区は登録者数が多くなるという傾向はあるが、右京区が人口に比べてすごく多いという訳ではない。

（参考：令和3年結核罹患率 京都市11.3 右京区8.4）

井上室長：7ページ「3 結核予防の推進」の結核罹患率の推移の表で人口10万単位の数値が出ているが、令和3年度は11.3となっている。右京区は人口が20万人なので全市的な率で考えると令和3年度であれば20数名出ていてもおかしくないが、実際は17人なので全市平均と比べると少ないと思われる。

寺村委員：結核と診断された患者は、診断した医療機関のある区で登録されるのか。それとも患者の住所地で登録されるのか。

有原係長：患者の住所地の区で登録される。

松木委員：梅毒の患者も住所地で登録されるのか。

有原係長：梅毒の患者は、診断した医療機関がある区で登録される。

松木委員：結核は排菌していると入院することが決まってしまうので、そういう形の登録の仕方になるのかなと思う。

大麻に関して、行政としてどう対応していくつもりがあるのかお聞きしたい。

井上室長：薬物については、今現在、区独自の取組はない。市の医療衛生企画課薬務担当が中高生に対してチラシを配布する等の全市的な啓発を行っているが、区としてはやっていない。

寺村委員：京都市には学校が多いので、市から実際に学校へ出向いて講演するなどで直接指導する方が、チラシを配るだけの啓発より効果があると思う。コロナの時に思ったのが、防護服の着方もビデオで見てもうより、やはり実際に現場で着方を指導することで皆さん理解されていた。薬物に関しても何らかの形で大学単位でも一定講演みたいなものをする方がより有効かと考える。

松木委員：子どもはぐくみ室の取組では、コロナのときはオンラインで啓発や講演等はしていなかったのか。全部対面だけでしかやっていなかったのか。

河原課長：３８ページに取組状況を書かせてもらっているが、例えば令和３年度のプレママ教室は、上半期は休止となってしまったが、下半期はオンラインで開催した。やはりお父様、お母様のニーズが多いので何とかつなげていきたいということで対応させていただいた。

松木委員：子どものスマホ教育として、このあたりは保健福祉センターとして学校教育等をしていないのか。

河原課長：夏場以降に離乳食講習会を実施しており、その募集方法は今までアナログ的に電話としていたが、今回は新たにオンラインで実施した。予想以上に実績があがったので、他事業についても進めていきたいと思っている。

松木委員：子育てに関して、子のスマホ依存について行政としてはどのような取組をしているのか。

有本部長：妊娠期からお母様、お父様への啓発として冊子を配ってお話させていた
いているが、その中にもＩＴ機器との付き合い方についての項目を設けてい
る。また、乳幼児健診で配っているパンフレットにも書かせてもらったり、
健診の待合場所でパワーポイントの資料を流すということもしている。大事
な問題なので各時期を通してその都度お話をする機会を設けている。

松木委員：どこかの県議会で、子どもだけで留守番をさせてはいけないというよう
な条例の話が出ているが、こういうのはこの協議会の話題に入ってくるものか。

河原課長：松木委員がおっしゃられているのはネグレクトのことだと思うが、家の中
で子どもだけで時間を過ごすという事態があることについて何か対策を考
えなければならないという部分に関しては、広い意味ではこの協議会の中
でもそうならないための手立て、工夫について御検討いただく範囲に入るの
ではと考える。

寺村委員：右京区がつなげているへき地に対しての行政の対応をお聞きしたい。私が
会長の時に、頼まれてへき地へ行って、検診をしたりコロナのワクチン接種
をしたことがあったが、やはりしっかりと段取りを組んで行かなければなら
ないくらい遠い。だから、へき地でデイサービスを必要としている人がいて
も、一般的な業者は効率をとってそういうところには行かない。送迎だけ
でも１時間はかかるのでそれもそうかとは思う。ただ、そこにサービスを必要
としている人がいるのだから、これこそ民間ではなく行政が対応すべき部分
だと思う。住んでいる地域で受けられるサービスに差があるのはおかしい。
難しい問題ではあるが、行政ができることはないのか。

森川課長：宕陰地区で介護サービスを受ける場合は、南丹市から来てもっているとい
うことは聞いている。寺村委員のおっしゃるとおりで気軽にサービスを受け
られない状況があるというのは課題である。

寺村委員：道が狭いのですれちがいがいも難しい。知っている議員に話したこともあるが、
「難しい。どうしようもない。」と言われた。実際難しいとは思う。ただ南丹
市も南丹市で色々と問題を抱えておられる。水尾、宕陰地区は右京区にある
地区なので京都市が対応できるよう何かいい案はないものかと思っている。
そこに住んでいるだけで受け入れられないのは気の毒だと思う。

藤田センター長：へき地は右京区だけでなく、左京区の久多や広河原など他区にもあり、全市的に考えていかなければいけないし、右京区だけで考えるのは難しく限界があると思う。へき地をまわっていただいている中で大変な思いをされているというのは介護の担当課からお聞きしているし、その辺も含めて市として何か案があればいいと思うが、今すぐ何ができるかと言われれば非常に苦しいのが実情である。

森川課長：医療と介護に関してはなかなか厳しい状況であるが、山間部の方の移動支援、買い物支援として、区社協が中心となって地域の役員の協力もいただきながら施設の車を利用して出かけたり、交流会を開いたりしている。また、京北地域では特定健診のときは民間の有償ボランティアで送迎をする仕組みを作ろうとする動きもある。

寺村委員：そういった取組も健康長寿につながると思うので、これからも進めていただきたい。

4 閉会挨拶

藤田右京保健福祉センター長